

濁水かわら版

スペイン風邪から100年 ⑩

第104号 2020年11月21日号
 ぼけ防止を兼ねて 中安 宏規

歴史を軽視する政治の怖さを見る スペイン風邪の記録を読む

図A 日本のスペイン風邪流行状況 (内務省偏・流行性感冒より)

流行	期間	感染者(人)	死者(人)	感染 100 対死者
第1波	1918年8月～ 19年7月	21,168,398	257,363	1.22
第2波	19年9月～ 20年7月	2,412,097	127,666	5.29
第3波	20年8月～ 21年7月	224,178	3,698	1.65
計		23,804,673	388,727	1.63

図B スペイン風邪の
 月別感染者と死亡割合

注①: スペイン風邪は第1次世界大戦末期の1918年に西欧で発生した。その数か月後の8月、日本に上陸し10月には沖縄(11月上陸)を除く全国に感染が拡大した。当時の政府は、8月から1月15日までの5か月間の感染者と死者をまとめている。感染数値が人口1000に対し336と高くグラフのバランスを崩すため図Bから省いた。なお1919年1月分は16日から31日までの数値です。

25

20

15

10

5

0



■人口1000対感染者	注	8.7	16	6.6	2	0.6	0.1	0	3.1	23	10	2.8	1.4	1.3	0.1	0	0	0	0	0.1	0.3	0.5	0.8	1.4	0.7	0.2	0.1	0	
■感染者100対死者	①	1.8	2.5	3.7	5	4.5	4.8	4.2	2.8	4.1	1.6	6	11	11	3.8	6.7	3	0.7	3.6	4.7	3.6	2	1.6	1.6	1.3	1.9	1.8	1.6	1.4

Prolog 今月に入り、全国的に新型コロナウイルスの感染が再拡大。日本医師会は第3波の襲来と指摘した。一方政府は「Go To トラベル」などのキャンペーン見直しをしないようだ。そこで1918(大正7)年から21年まで3年間にわたり日本を巻き込んだ「スペイン風邪」の流行を内務省偏「流行性感冒」の報告書を基に当時の様子を再現してみた。

① 図Aは日本のスペイン風邪の感染者数である。第1波の感染者は2116万8千余人。死者は25万7千余人。17年末の現47都道府県人口は5719万人。感染者は37%に達していた。第3波までの感染者総計2380万人。10人中4人が感染し、死者は感染者の1.6%である。

感染は同時多発的だった

② 図Bは、全期間の人口1000対感染者数と感染者100対の死者数をグラフにした。感染拡大は、次ページの図Cに見られるように同時多発的傾向がであつたらしい。次頁へ

■ 人口1000対感染者

■ 感染者100対死者

新型のコロナ禍では見られない全国調査を行っていた

[illegible]

和歌山	十月中旬	七五七九	三七〇六	五〇三三	一六八	豐	二九七	四九	三三
徳島	十月	七四〇九	四〇〇九	四三九	九七	番	一七五	三九	二天
香川	十月上旬	七四二四	七二四七	四九六	八八八	二六	四七二	三	二天
愛媛	十月中旬	二二六四六	五八五五	五五五	三〇九	天	二八四	六	二天
高知	十月上旬	七〇八八九	一四六九七	八六		天	二八四	六	二天
福岡	十月九日	二〇五五七	五七七九八	中二重	二二四	重	二九	八	二天
大分	九月二日	八九二四	二九九三六	重四重		重	二九	八	二天
佐賀	十月上旬	七四六五	四〇〇八	重四重	五八	重	四四	一	二天
熊本	九月中旬	二六四二八	五七三三〇	五〇九八	五四	重	九〇九	一八	二天
宮崎	十月中旬	六四二四六	五五九九五	五〇五二	一六	天	二	一	二天
鹿児島	十月中旬	二四〇三三	五三二四六	重四重		天	二	一	二天
沖縄	十月上旬	七五二六	一〇四四〇	一四四		天	二	一	二天
計		七一九〇五	二九三二六	二四二五〇	四九八七	八九三	五二六〇〇	一〇一〇〇	六四四九
人口千ニ對スル患者及死者			二六三九	二六六	八六七	〇二五	九〇九	〇一八	六七
患者百ニ對スル死者				一六六	一九	一九	一九	一九	一九

発生は神奈川→静岡→福井の順

③ 図Cは第1波からの47都道府県の〔流行の初期(注:発生とは異なる)〕〔1917年末の総人口〕〔第1波の19年1月15日までの感染者数〕〔同死亡者数〕。次いで1月16日以降の月別データを掲載したもので、都道府県の調査を内務省が集計したものという。

★本文では見出しの神奈川・静岡・福井の順で発生。4位以下は、富山・茨城・福島 の諸県。

★前後して埼玉・山梨・奈良・島根・徳島等の諸県。

★九州は9月下旬より10月上旬に熊本・大分・長崎・宮崎・福岡・佐賀の各地を襲う。

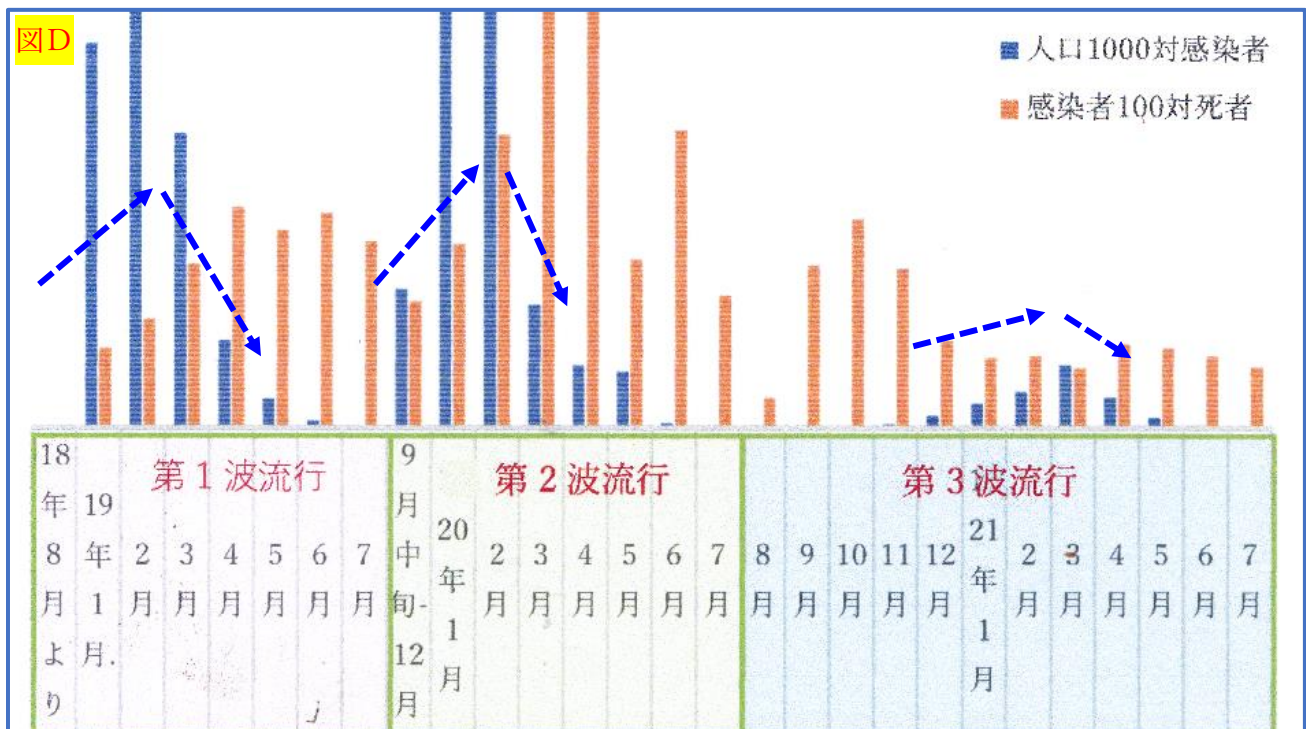
★10月中旬には山口・広島・岡山・京都・和歌山・愛知を侵し、同時に東京・千葉・栃木・群馬等の関東方面に蔓延するもほとんど1旬の差を見ず。

★10月下旬北海道へ、11月上旬に沖縄に及んだ。

横須賀帰港の軍艦に250名…

④ 5月下旬、横須賀に帰港した軍艦に感染者が250人。次いで9月2日、北米から横浜入港の船舶に多数の感染者がおり、いずれも陸上に伝搬した。だが大流行もたらしたとは言えないという。理由は、同年初春から5～6月のインフルエンザ疾患が流行の先駆という意見。**③**に見られる発生と流行の乱れから「海外からの侵入経路は不明というほかなし」の結論を記している。 [次頁へ](#)

感染は立冬(11月)から立夏(5月)までの流れ



図E 24節気と気候の変化

正節と春分秋分	月 日	季節変化の様子
秋分	9月23日	太陽が天球上の赤道を北から南へ横切り冬に向う
寒露	10月8日	秋深まり 紅葉前線が南下
立冬	11月7日	暦の上で冬到来
大雪	12月7日	北国は雪の日多し
小寒	1月6日	寒気が深まる
立春	2月4日	暦で春到来・節分の翌日
啓蟄	3月5日	地中の虫が這いだす
春分	3月21日	太陽が天球上の赤道を南から北へ横切り夏に向かう
清明	4月5日	サクラ前線が北上する
立夏	5月5日	暦の上で夏到来
芒種	6月5日	梅雨の季節
小暑	7月7日	本格的な夏
立秋	8月7日	暦の上で秋到来
白露	9月8日	野草に白露がたまる
秋分	9月23日	秋の彼岸 祝日

*24節気は、古代中国で1年間の太陽の動きを24等分した暦。正節と中気(ちゅうき)があり、現在の日本でも新暦が日常使われている。ここでは正節12節と春分・秋分のおおよその日付けを記した。

⑤ 秋10月の始め、岩手と秋田の県境の1500m級の山脈の紅葉が始まる。中旬に中腹が染まり、下旬から11月初めに市街地がモミジに覆われ、モミジ前線が南下する。盛岡でのかつての体験だが、北海道は、およそ1か月早い。大雪山の今年の初冠雪は9月26日であった。図Dは1ページの図Bの一部を再掲した。図Eは暦の24節気の正節(せいせつ)と春分・秋分の例年のおよその日時を記した。

死者は流行初期の4倍に

⑥ 100年前のスペイン風邪の感染流行を図D青柱の傾向を--▶で示すと、3年間とも図Eの24節気の□内の傾向と一致する。さらに感染の流行が終わると、感染者からの死者茶柱が目立って増える。私の素人考えだが、冬場の流行に堪えた感染者が、初夏から夏場に体力の限界を迎え、力尽き旅立ったのではないか？ そう考えながら、内務省偏「流行性感冒」を読み進むと次のように記していた。

「本病の死亡者は、発生患者数と並行して増減あるも、患者に対する比率は、最初は比較的低く、経過と共に漸次その率を増せり。18年流行期は患者100に対し1人強。翌19年1月末から2月初旬に至り2人弱。2月下旬より3月は3.0～3.7人。4月には

4.96人と高率に達した。5～7月はやや低下の傾向も4.0以上であった。虚弱者・老幼者の以外では病性が悪変し肺炎を併発し斃れた強壯者多数あり。他の急性伝染病より死亡率は低い、今

の流行で、かつて見たことがない死者を出したことは、その伝染力が猛烈で患者がすこぶる多数であることによる。青字の「強壯者多数」は、私の考えの中にも含まれる。感染者の夏場は厳しいに尽きる。 次頁へ

新型コロナ流行の流れと日本政府の対応 1 世紀前の日米を比較

図F	1月15日	日本初の感染者
	1月15日	①官邸に「情報連絡センター」設置
	1月20日	安倍首相施政方針演説 五輪・パラ大会成功を強調
	1月25日	中国旅行業団体、27日から海外の団体旅行禁止を発表。安倍首相 26日から6月20日まで146日間連続出勤
	1月29日	武漢発チャーター機第1便羽田着 2月13日まで5便829人帰国
	1月30日	②政府、「新型コロナウイルス感染症対策本部」設置 安倍首相を中心に全閣僚が参加
	2月2日	クルーズ船ダイヤモンド・プリンセスが横浜に入港
	2月5日	同船乗客に感染者10人判明。14日間の検疫開始
	2月13日	日本初の死者
	2月14日	③ ②の指揮下「新型コロナウイルス感染症対策専門家会議」設置
	2月19日	クルーズ船の乗客解放。21日迄970人帰宅。感染712人死13
	2月25日	④ 厚労省、直属の「クラスター対策班」設置
	3月13日	「改正新型インフルエンザ等対策特別法」成立
	3月24日	東京オリンピック延期決定 21/7/23日開会予定。
	3月24日	小池都知事「感染拡大の重大局面」と会見で述べ、スーパーに客が殺到し棚から商品が一夜にして消える
	3月26日	⑤「新型インフルエンザ等対策有識者会議」メンバー決まる
	4月7日	政府、東京など7都府県に緊急事態宣言発令。5月6日まで
	4月16日	政府、緊急事態宣言を全国に拡大。5月6日まで。
	5月8日	厚労省、PCR検査目安「体温37.5°以上4日継続」を削除
	5月14日	政府、39県の緊急事態宣言を解除
	5月21日	政府、近畿3府県の緊急事態宣言を解除
	5月25日	政府、残る5都道府県の緊急事態宣言を解除
	6月24日	政府③廃止⑥新型コロナウイルス感染症対策分科会設置
	7月22日	政府8月実施のGo Toトラベル事業、批判を押し切り実施
	8月28日	安倍首相、退任表明。146日間休まず、持病が8月再発という
	9月16日	菅政権が成立

⑦ 図Fは、100年前のスペイン風邪と比較するためコロナ禍の主なニュースを時系列でまとめた。武漢から帰国した日本人の初感染が確認されてから緊急事態宣言発令から解除に至る政府の対応、安倍首相の退任、菅政権の成立までの要点である。政府が立ち上げた会議順を●数字で示した。初動がにぶく、クルーズ船の対応遅れや安倍首相の持病再発による退陣…。「突然の退陣まとも」の大見出しで伝え、内閣支持率は30%前後まで下がった。

図Gは緊急事態宣言発令、宣言解除の都道府県の流れが判り難いので整理した。

米シカゴの記録

図Hは、内務省偏「流行性感冒」に掲載の1918年9月18日から11月末までの米シカゴの記録(翻訳)です。山型の曲線は381人の死者を点描。曲線に合わせ「マスクの着用奨励」や「劇場・学校の閉鎖」から「閉鎖解除」が記入されている。100年前のシカゴの対応をトランプ大統領はご存知だろうか？ 歴史の記録文書が貴重な事は日本政府も学ぶべきだ。 **続く**

図G	緊急事態宣言発令
4月7日	①東京・神奈川・埼玉・千葉・大阪・兵庫・福岡の7都府県に発令 5月6日まで
4月16日	緊急事態宣言を全国に拡大 対象は ②特定警戒都道府県=13都道府県は ①の7都府県 + 感染拡大の6道府県 (北海道・茨城・石川・岐阜・愛知・京都) ③ ①②以外の特定都道府県=34県
5月4日	緊急事態宣言を5月末まで延長
	緊急事態宣言解除
5月14日	①と②の福岡・茨城・石川・岐阜・愛知 ③の34県 計39県解除
5月21日	大阪・京都・兵庫の近畿3府県
5月25日	残る①②の東京・北海道・神奈川・埼玉・千葉 5都道府県を解除した

